



九州の国鉄と

## 海老津駅六十年の歩み

と決定、岡垣町道路専用料徴収条例外、九議案は原案可決。一議案は結託密議となる。

- 1、岡垣町道路専用料徴収条例判定について
- 2、岡垣町河川管理条例制定について
- 3、昭和四十三年度、岡垣町一般会計歳入歳出決算認定について
- 4、昭和四十三年度岡垣町特別会計国民健康保険歳入歳出決算認定について
- 5、昭和四十三年度岡垣町特別会計農業共済事業歳入歳出決算認定について
- 6、岡垣町税条例の一部を改正する条例
- 7、岡垣町総合計画審議会条例判定について（再付託）
- 8、昭和四十四年度岡垣町一般会計歳入歳出補正予算（第一回）案
- 9、昭和四十四年度岡垣町特別会計国民健康保険歳入歳出補正予算（第二回）案
- 10、昭和四十四年度、岡垣町特別会計水道事業費歳入歳出補正予算（第一回）案

ネルが開通して、現在の老津駅が開通しました。營業開始の当日は乗車人百三十名であったと云われ、遠野川駅の発車汽笛を聞いて電車を飛びだせば、海老津駅で充分間にあった。今考えると隔世の感がいたします。城山トンネル開通時は、上り勾配を下り貨物列車が牵引力が弱いのでトンネル入り口でエンコし、貨車を半分残して赤間駅へ、上り列車は海老津駅まで運転し、機関車が残りの貨車を引っぱりに行くことが度々ありました。海老津—赤間両駅の駕員は運転取扱いに大変苦労をしていました。昭和三十年電化完成により、現在は八十キロの速度で走っています。

この度は内地造成の拡張と觀光に恵まれた岡垣が益々發展の途上にあること

私たちは毎日歩いている道、毎日通っている学校そして戸畠と若松を結んで大いに私たちの生活に役立っている若戸大橋、これらはみんな一般國民が義務として納入している税金でまかねわれています。私のお父さんも市町村民税を毎月市民の義務として納めています。

現在、私たちの母校、深町校は、鐵筋四階建ての校舎を建築中です。その他、公園や市民のくらしに役立つ施設を作ったりよくしたりするのに必要なお金はみんな市民の出した税金で仕事を進めているのだと思います。私達國民がたちは暮らしをいっそう豊かで便利にするわけですから、この大切な税金を一人でも不服に思つたり、こまかしたりしてはならないと思ひます。もしこんな不心得者が國民の中にいたとしたらどうなるでしょうか。でこぼこ道も直せないし、せまい道巾も広めることは出来ないでしよう。交通事故のふえる事は明らかかなことです。

納税は私のため

渡辺 潤

ているおじさんには「市町村に納めた税金は、大体どことかに使われているのうか」と尋ねてみたことがあります。おじさんは「大きく分けると、地主の付金、道路の整備修理として社会保障、社会福利とに分かれているよ。」物の値段の中に含まれる間接税とがあってどの金も、国民の大切なお小遣から、税の額は、みんな納得のいくように公平に認め、まだなく使うようになければならないんだ」と話してくれました。(中略)市民が税金に対しても納めなければならない義務との税金がどのように私生活に役立っているかを語り、いかにだいじかというのが、しみじみわかりました。時々、新聞などで名前が載せて自分の記事を目にすることがあります。このようななまづき納めるようにしたいと従業者は国民の敵だと思いつす。

△湯川山（波津）  
里伝では昔、この山の谷に温泉があつたので、湯川といつたとある。  
「蓬賀郡誌」にも「牧神社より四町ばかり北に温泉跡あり。広さ五尺四方ばかりの水溜りにて、側の岩に緑青の如き苔生ぜり」とある。しかし、この湯川は、また斎川（ゆがわ）の転記ともいわれている。  
これについては、折口信夫博士も、「湯は斎（ゆ）に通ずる音で、古くは、湯といったのが、果して今の吾々のいうところの温かいもののかどうか疑問である。斎川水ということもあって、これは、天子の体を淨める水で、用水でも、池でも、泉でも、なんでもそういうのである。  
それで、斎川というのは、禊に使う水のことなのである。そして、この斎川が段々変化して、終には、湯にまでなったと見るべきである。といわれている。昔にまでなったと見るべきである。といわれている。昔

アシアで初めて開かれる日本万国博も余すところ三〇余日となりました。ところで万国博とはどんなものか知っているようである。といわれる。昔案外ご存じのない面があるので、万国博の由来を紹介してみましょう。

第一回の万国博は一八五一年（一九年前）ロンドンで開かれ、以来アメリカや、ヨーロッパで大規模なものだけでも二十数回にわたって開かれています。万国博は商品の取引をねらいとする国際見本市とは本質的に違ったもので、世

△湯川山（波津）  
里伝では昔、この山の谷に温泉があつたので、湯川といつたとある。  
「蓬賀郡誌」にも「牧神社より四町ばかり北に温泉跡あり。広さ五尺四方ばかりの水溜りにて、側の岩に緑青の如き苔生ぜり」とある。しかし、この湯川は、また斎川（ゆがわ）の転記ともいわれている。  
これについては、折口信夫博士も、「湯は斎（ゆ）に通ずる音で、古くは、湯といったのが、果して今の吾々のいうところの温かいもののかどうか疑問である。斎川水ということもあって、これは、天子の体を淨める水で、用水でも、池でも、泉でも、なんでもそういうのである。  
それで、斎川というのは、禊に使う水のことなのである。そして、この斎川が段々変化して、終には、湯にまでなったと見るべきである。といわれている。昔にまでなったと見るべきである。といわれている。昔

アシアで初めて開かれる日本万国博も余すところ三〇余日となりました。ところで万国博とはどんなものか知っているようである。といわれる。昔案外ご存じのない面があるので、万国博の由来を紹介してみましょう。

第一回の万国博は一八五一年（一九年前）ロンドンで開かれ、以来アメリカや、ヨーロッパで大規模なものだけでも二十数回にわたって開かれています。万国博は商品の取引をねらいとする国際見本市とは本質的に違ったもので、世

ここに馬牧があつたところから護るために、馬を守り、或は、祓川や、「波津浦の上に、大いに牧跡あり、めぐる涇あり」とある。「筑前国続風土記」によると、も牧神社（現在は、「源井神社に合祀されている。なにかに馬牧のあつたこ

れがあり、山の中腹には、今も牧神社（現在は、「源井神社に合祀されている。なにかに馬牧のあつたこ

万國博覽会の由来

故のされ  
して  
をか  
とも  
御支  
て欄  
も  
里伝では皆、この山の谷に  
温泉があつたので、湯川と  
いつたとある。  
「遠賀郡誌」にも「牧神社  
より四町ばかり北に温泉跡  
あり。広さ五尺四方ばかり  
の水溜りにて、側の岩に緑  
青の如き苔生ぜり」とある  
しかし、この湯川は、また  
斎川（ゆがわ）の転記とも  
いわれている。  
これについては、折口信夫  
博士も、「湯は斎（ゆ）に  
通する音で、古くは、湯と  
いったのが、果して今の吾  
々のいうところの温かいも  
のかどうか疑問である。斎  
川水ということもあって、  
これは、天子の体を淨める  
水で、用水でも、池でも、  
泉でも、なんでもそういう  
のである。  
それで、斎川というのは、  
禊を使う水のことなので  
ある。そして、この斎川が  
段々変化して、終には、湯  
う。  
ここに馬牧があつたと  
から、或は、祓川や、一  
場と同じように、馬を  
などから護るために、一  
神社に合祀されている。  
があり、山の中腹には、  
洗って、祈祷をしてい  
る。馬牧のあつたこと  
今も牧神社（現在は、  
神社に合祀されている。  
「筑前国続風土記」に  
「波津浦の上に、大いに  
牧跡あり、めぐる涅あら  
湯川山に至る。いつに  
にできたとということを  
牧なりという」とある。  
そして、俗説では、源  
の愛馬、生月、摺墨は  
この名馬草については、  
ある。生月、摺墨は、一  
の草を株にしていたとい  
ふので、名馬草といったし



五 路 五 章